

平成 25 年 10 月の解説（府県天気予報）

【10月の天候状況】

上旬は、日本の東海上の太平洋高気圧の勢力が平年より強く、また偏西風も平年に比べて北寄りに流れたため、全国的に高温となり、北・東・西日本の旬平均気温は 1961 年以降で最も高くなりました。特に、台風第 24 号が九州西方から日本海を通過した上旬後半は、南から暖かい風も吹き込み、糸魚川（新潟県）で 10 月としては国内の観測史上初めて猛暑日を記録するなど、北日本から西日本にかけて厳しい暑さとなりました。一方、沖縄付近を北西進した台風第 23 号や沖縄付近から九州西方を北上した台風第 24 号の影響で、沖縄・奄美では降水量がかなり多くなり、西日本でも多くなりました。

中旬は、11～12 日は日本海を通過した低気圧に南から暖かい空気が流れ込んだ影響で、北日本から西日本にかけて気温が高くなりました。15～16 日は、台風第 26 号の影響で、北日本から西日本の広い範囲で暴風、大雨となりました。中旬後半は、台風第 26 号から変わった温帯低気圧に北から流れ込んだ寒気の影響や大陸からの冷涼な高気圧に覆われた影響で、北日本を中心に気温が低くなり、16 日は北海道の各地で初雪を観測しました。20 日は日本の南岸を低気圧が通過し、西日本から北日本の広い範囲で雨となりました。

下旬は、旬前半は、ゆっくり北上した台風第 27 号からの暖かく湿った気流の影響で、ほぼ全国的に気温が高く、曇りや雨の日が多くなりました。24～26 日は、台風第 27 号と秋雨前線の影響で、東・西日本を中心に大雨となりました。それ以降は、一時的な冬型の気圧配置の影響や、冷涼な高気圧に覆われた影響で、概ね全国的に気温が低くなりました。

月平均気温は、北・東・西日本でかなり高く、平年を 1 以上上回りました。若松（福島県）、長野、彦根（滋賀県）など 16 地点では 10 月の月平均気温の高い方からの 1 位を更新しました。月降水量は、北・東日本と西日本日本海側ではかなり多く、西日本太平洋側と沖縄・奄美で多くなりました。盛岡（岩手県）、大島（東京都）、萩（山口県）では 10 月の月降水量の多い方からの 1 位を更新しました。月間日照時間は、北日本ではかなり少なく、東・西日本で少なくなりました。むつ（青森県）では 10 月の月間日照時間の少ない方からの 1 位を更新しました。

【10月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 2 ポイント高い 86% で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 83% でした。各地方の適中率では、明日予報は例年値と同程度が高く、近畿・四国地方では 5～7 ポイント高くなりました。明後日予報も例年値と同程度が高く、東北・中国・四国・沖縄地方では 5～6 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 1.5 でした。各地方の予報誤差では、例年値と同程度が小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.3 でした。各地方の予報誤差では、全国的に例年値より小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12月の天気予報の利用にあたって】

12 月は本格的な雪の季節の始まりとなります。北日本では雨よりも雪になる日が次第に多くなり、山沿いや日本海側を中心に大雪になることもあります。

低気圧が発達しながら日本付近を通過した後、強い冬型の気圧配置となるときには、北日本や日本海側を中心に暴風や高波、大雪、着雪、ふぶき、突風等による列車の運休や航空便及び船便の欠航、路面の凍結などの交通機関への影響、また、停電などの被害が発生するおそれもあります。各地の气象台で発表される最新の気象情報や注意報、警報等に留意し事前に備えるようにして下さい。